

●●●●=必ず記入

○○○○=計画に応じて該当するところを記入

1 当該学年・学期等における探究課題 《キャリア》

2 単元名 『わたしたちの夢について考える』（全55時間=実施時期：4月～2月）

3 単元のねらい *本単元で特に身に付けさせたいと考えている資質・能力と、それを身に付けさせるための仕掛け（主な素材・活動等）を明確に

「大人」、「働く」ことについて、課題意識をもち、職業に実際に就いている地域の人やふるさと県主を盛り上げようとして活動している方々の話を聞いたり、本やインターネットで調べたりすることを通して、自分たちのふるさと県主の未来の姿や将来の夢を具体的に考えることができる。

4 主な活動とふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと（こと）」との出逢い・関わりの仕掛け、引き出したい子どもの姿

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
主な活動		○3～5年生の学習を振り返る中で、地域の支えに気づき、「大人」について考えたり、話し合ったりする中で課題意識をもつ。 ○県主地域のためにできることを話し合う。 ●「働く」ことについて考えたり、将来の夢について話したりする中で課題意識をもつ。	○地域を支える大人の思いや生き方についての情報を集める。 ・ミニアンクスプログラムを実施する。 ○自分の考えを実現するために、具体的な方法を考え、実践する。 ●非認知育成プログラムを実施する。	○集めた情報や考えを共有する。 ●なりたい職業の魅力ややりがいなどを調べたり、自分の特性について考えたりする。	○将来の夢（職業）やなりたい自分について具体的に発表する。参観日 ●学習を振り返り、今後の目標をもつ
仕掛け・工夫	もの	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○
	ひと	職業に実際に就いている地域の人ふるさと県主を盛り上げようとして活動している方	井原や県主の大人の方（5名） ●仕事や人生についての話を聞く。知りたい情報についてインタビューをする。	○○○○	井原や県主の大人の方（5名） ●将来の夢（職業）やなりたい自分について具体的に発表する。
	しごと（こと）	○○○○	公民館主事・ひとづくりコーディネーター・井原LOVERS等	○○○○	公民館主事・ひとづくりコーディネーター・井原LOVERS等
引き出したい姿	いばら愛 <small>（郷土愛と当事者性）</small>	○○○○	地域の人や家族、友達との関わりを通して、多様な情報を共有したり、力を合わせて活動したりして協力的に学ぶことができる。	○○○○	自分の考えを見直したり、新たな考えを受け入れたりすることで、自己を高めようすることができる。
	やり抜く力 <small>（忍耐と向上心）</small>	映像資料やインターネット、図書などの情報をもとに、課題と向き合い、自分を取り組むべきことを見付け、活動の見通しをもつことができる。	意図や目的に応じて、映像資料やインターネット、図書などの様々な方法で情報を集め、整理・分析しながら、必要な情報を選択することができる。	○○○○	○○○○
	まき込む力 <small>（発信と協働）</small>	○○○○	○○○○	調べたり考えたりしたことをもとに、具体的な方法を考え、行動にうつすことができる。	整理・分析した情報をもとに、自分の考えをまとめ、相手や目的に応じて伝えることができる。
アウトプットの工夫		<ul style="list-style-type: none"> ・協同する活動が必然的に生まれる学習活動の展開 ・言語活動による体験の意味の自覚化 ・地域の人材の積極的な活用（共有・助言） 			
		○探求的な学習過程が発展的に繰り返される活動 課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ表現			

5 他教科・領域、学校行事等との関連

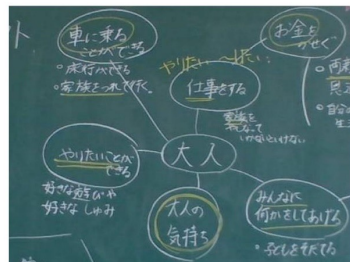
国語科「私たちにできること」「みんなで楽しく過ごすために」
「今、私は、ぼくは」
総合的な学習の時間「オペレッタ「大谷山開墾」」

6 他学年、他校（園）種、外部団体との連携・接続・交流

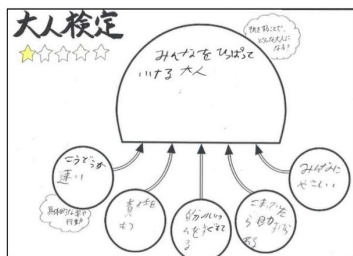
2年生への「2年生プロデュース大作戦」

◆単元のねらい「「大人」, 「働く」ことについて, 課題意識をもち, 職業に実際に就いている地域の人やふるさと県主を盛り上げようとして活動している方々の話を聞いたり, 本やインターネットで調べたりすることを通して, 自分たちのふるさと県主の未来の姿や将来の夢を具体的に考えることができる。」

6年生になり, 自分達の将来について考えるが増える中で大人や将来の夢に関心をもった。そこで, 「夢に近づくために自分ができることを考え, 実行し, 自分の未来にいかしたい」という願いを設定した。



大人とは何かクラスの中で話し合い, 考えを広げた。その中で大人への理解が深まったという声が上がったため, 自分の思う大人な行動を集め, 大人検定を行った。



しかし, 結果は低く, 大人のことを理解しているつもりになっていただけだと気づいた。

そこで地域の大人の方から人生や仕事の話聞き, 情報を集めた。その結果, お手本にすべき大人が, たくさんいることに気付いた。

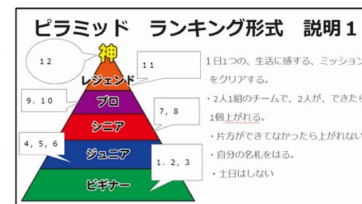
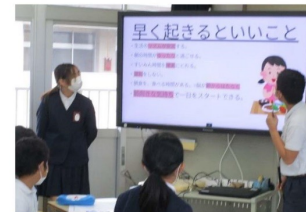
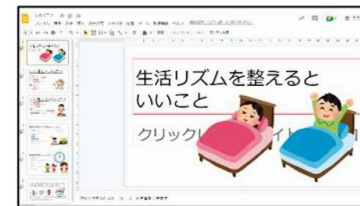
また, 話を聞いたことによって得た気づきを「大人力」と名付け, 自分の言葉でまとめた。そうすることでより学びを確かなものにする事ができた。



自分達が気づき, 価値づけた大人力を未来にいかしたいという新たな願いを設定。そこで「2年生プロデュース大作戦大作戦」に取り組んだ。

実際に2年生と話しをして, 実態を把握したり, 低学年にとって分かりやすい方法を調べ, どのようにアプローチをしていくのか考えた。

その結果, スライドやミッションを設定した。大人力の中に「相手意識をもって仕事をする力」「挑戦し続ける力」などがあり, その視点を意識し, 完成したスライドを自分達で見直し, より低学年にも分かりやすいように改善をした。



これまでの学習を活かして, さらに自分の将来の夢について考えるという課題を新たに設定した。

非認知育成プログラムを実施する。また, なりたい職業の魅力ややりがいなどを調べたり, 自分の特性について考えた。その集めた情報をもとに自分の夢についてまとめ, 発表をした。



◆成果 (○) ・課題 (△) ・来年度に向けて (☆)

- 多くの地域の方から話を聞いて得た学びを実際に学校生活のなかで活かす場面を設定することで, 目的意識をもって活動に取り組む姿が見られるようになった。
- 仕事内容を調べるのではなく, 職業の魅力ややりがいについて調べることで, 様々な視点から自分を見つめ将来について具体的に考えることができた。
- ☆将来の自分について考えることが苦手な児童が多いため, なりたい自分について考える機会を他教科や行事などで設定し, 年間を見通して取り組む必要がある。